ふるさと 霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史 文化の再発見と創造を考える

第 127 号 (2016年12月)

風に吹かれて(105

白井啓治

変わらぬは移ろいを刻む時の声ひとり

がつけばもう師走である。 見失ってしまいそうな今年の陽気であったが、気 である。暴走もある。やれやれ人はいったい何処 へ向かおうというのだろうか。故立原正秋が、小 陽気の定まらぬ年は、人間社会も迷走するよう 夏は何処に、秋は何処で道草を、 などと四季を

それに関連して、ふるさと文化と伝承物語につい 報センターで、ふるさと風の作品展が開かれる。 て少し述べてみたいと思う。 さて、12月3日~7日まで、石岡市まちかど情 に信じられるのは美であり芸術だけであろう。 書いているが、今をぐるり見わたしてみると、 説・エッセイの中で「信じられるのは美のみ」と

正

れらの一つ一つにはそれぞれ「伝説」だとか「い

しのあるところ一つの生産があります。 う。ふるさと文化をもっと平ったく考えてみると 分ったようでさっぱり分らない話しになってしま 様式と内容である。こんな風な言い方をすると、 一つの文化には一つの暮らしがあり、一つの暮ら 「その風土に生活する知恵」ということができる。 ふるさと文化とは、その風土固有の生活形成の

> もないということができる。 り立たない。当然のこと生産がなければ文化はな い。つまり、文化がなければ生産はないし暮らし ければ文化はないし、生産がなければ暮らしは成 少し理屈っぽい言い回しになるが、暮らしがな

つ失ったということである。 たということになる。つまり、生活する知恵を一 つの生産がなくなり、一つの暮らしがなくなっ ふるさと文化にはいろいろな側面があるが、そ ふるさとに一つの文化が消えたということは、

て口にのぼる。しかし、不思議なことにその産業 それは、その土地の人たちの間に確りと認知され 受け継がれることによって日常生活の知恵となっ われ」等の物語があり、それらは伝承という形で まうのである。 生産が無くなりそこに暮らす人もいなくなってし の衰退にあわせて認知されていた伝説や民話が つわる伝説や民話が必ず伝承されてある。そして は、その産業もなくなってしまっている。つまり、 人々の口にのぼらなくなり忘れられていく。そし 発展してきたが、その裏側を見るとその産業にま て活かされ、暮らしを支えてきた。 ふるさとにはそれぞれ特徴的な産業(生産) その伝説や民話がすっかり忘れられたときに が

> とは、掘り起こした文化に対して、 り、時代的に不都合ができたりしている部分に対 るものがあるかを検証すると同時に、 ることはない。 味なものであれば、伝えたり、受け継いだりされ といっても良い。いずれにせよ将来にとって無意 嫌なら有用性とか必要性と言っても良いし、理由 対する必然性が必要である。必然性という言葉が いでいこう、伝えていかなければ、という将来に えれば良いというものではない。そこには受け継 ふるさと応援者として伝承を創造するというこ 一つの文化を伝承していくためには、 伝えるに値す 磨り減った 単純に伝

して、新たな価値を再構築するという事である。

ふるさと風の会会員募集中!!

ふるさと風の会では、「ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域) 歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集してお 自分達の住む国の暮らし 考え、声高くふるさとを語り、 しております。

会の集まりは、月初めに会報作りを兼ねた懇親会と月末に 雑談:勉強会を行っております。

○会費は月額 2,000 円。(会報印刷等の諸経費) ※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

啓治 昇三 0299-22-4400 0299-24-2063 打田 兼平智惠子 弓子 0299-26-1659 0299-26-7178 伊東

*

していただければよいだろう。

していただければよいだろう。

ま来への道標だとか未来への一里塚と理解とは、未来への道標だとか現由の中身になるが「未来の思い出とは、些か文学的表現になるが「未来のその中身とは、些か文学的表現になるが「未来のとは、未来への道標だとか未来へのであるが、大家の世界とは、未来への道標だとかままへのであるが、大家のであるが、大家のである。

しての灯が一つ消えたということに他ならない。役割がなくなったからだといえる。それは文化と未来の思い出(未来への道標、一里塚)としての「伝承が途絶えたというのは、伝承の意義である

爬虫類も我々のご先祖

誌・理化学辞典・ネットなどの「かき集め」。が長年かけて開発を続けた集大成であり、科学雑

の知識など、自分で開発したものではなく、人類

両生類から分岐し、恐竜などが繁栄した。の字は「地を這う」という意味であり、3億年前、も、我々哺乳類のご先祖様である。爬虫類の「爬」述べた。ならば当然、両生類から生まれた爬虫類述へた。ならば当然、両生類も、 我々のご先祖である…と

を辿れば、そういう事になる。恐竜から分岐し、今日の繁栄を見ている。DNA特に我々哺乳類の先祖は、2億2500万年前、ヘビ・トカゲ・カメ・ワニなども爬虫類であり、

なる旅路」の一コマが「爬虫類時代」であった。「人類」にまで成長した。 40 億年にわたる「遥か加えて、遂には、この広大な宇宙をも認識できる「生命の設計図・DNA」に、進化という変革を現在の生物は、その原初の単細胞生物が獲得したこの地球上に生命が誕生して約40億年。全てのこの地球上に生命が誕生して約40億年。全ての

自慢話みたいで恐縮だが、私自身関与の新開発自慢話みたいで恐縮だが、私自身関与の新開発の「豚パルボウイルス」(死流産や新生児の死亡などを起の「豚パルボウイルス」(死流産や新生児の死亡などを起けた事。1969年、当時世界でも極めて稀な病けた事。1969年、当時世界でも極めて稀な病けた事。1969年、当時世界でも極めて稀な病で、なぜ日本で? しかも、この石岡市で見つている事が分かり、後のワクチン開発に繋がる原材料を、この石岡市で見つている事が分かり、後のワクチン開発に繋がり、

疫体験から、その蔓延方法の一つとして「ウイルな防疫対策はできなかった。そこで私は過酷な防てきた。世界中どんなに工夫を凝らしても、完璧初めて豚オーエスキー病(字豚などの死亡)が侵入し改良のため欧米から輸入した種豚が元で、日本になかった時代(1982年)、検疫の網を潜り抜け、二つ目は、DNA解析が世界でまだ進歩してい二つ目は、DNA解析が世界でまだ進歩してい

かり残す事も重要と考える。所詮、文学や芸術だ

歩進め、枠を外れた斬新な業績を、職場にしつ

しかし長期的視野で物事を考えれば、更に

勿論、公務員としての義務は、忠実に果たしたつ

こういう仮説を唱えている』と紹介された。 スは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の及ばぬ手段により、宿主の免疫シススは、人知の人には、人知の人は、人知の人には、人知の人にない。

その年度の全国業績発表会最優秀賞に輝き、農水 国 2 都道府県で、延べ 3 回の防疫対策講演を行 上に、世界の本病防疫対策が確立されている。 を基礎にした漠然たるものながら、仮説内容は正 という新事実が確認された。私の仮説は現場体験 あるウイルスに成熟し、次の感染の原因になる… いうストレスが重なった時、ゲノムが感染能力の 豚の三叉神経の染色体に潜り込み、妊娠や分娩と が検証を重ね、ウイルスのゲノム(全遺伝子)が、 派遣され、日本の高度技術の海外普及に携わった。 省の推薦により、外務省の嘱託職員として外国に った。また、高校野球なら甲子園優勝にあたる、 次第。更に緊急事態のため国の後押しもあり、全 少ないのなら、今の内に公言しておこうと思った は知らない。私は、自己宣伝は嫌い。但し余命が しい事が立証された。現在、そういう基礎知識の こんな事は知る人ぞ知る。専門家でも殆どの人 以上、陰ながら社会に貢献したのは2件のみ。 以後、DNA解析技術が進み、世界中の科学者

ろうが、大工の、その場に応じた創意工夫がしっ 図をはみ出した建築だからこそ、 も、現場の大工さんの「ひらめき」の方が、遥か に結構と私は言いたい。一級建築士の設計図より と喜んでくれるなら、少々ハメを外すのも、大い と。こんな事はお堅い「建築基準法」に触れるだ 夫改良した積み重ねが、文化の発展なのであろう。 に価値ある事だってありうると思う。】 かり活かされ、需要者が後々『これは良かった!!』 って、世界の誰かが開発した手法を、 最近読んだ本にこんな事が書いてあった。『設計 価値がある…』 自分流に丁

るマグマ噴火と酸素の動静なしには語れない。即 隕石などが無数に衝突してきて、内部に巨大な熱 2㎝のヤモリの一種から、アミメニシキヘビや、 及ぶ。卵生又は卵胎生で変温動物である。体長が ち地球内部でマントル対流が起こり、大陸は分裂 出され続けている。生命の歴史は、大陸移動によ エネルギーを蓄えた。その熱が、今なお外部に放 地球は46億年前に誕生したが、その際、微惑星や により、しみじみ本を読む機会に恵まれた。即ち、 長期入院という「神様が私に与えて下さった休暇 のか? これは私の長年の疑問であった。この度 アナコンダの10 紅級。更に体重は、イリエワニの 両生類から分岐して繁栄し、現生では、トカゲ類、 のような大変革が、なぜ矢継ぎ早に、次々起きた やリクガメは雑食性である。基本として体表には 15以上などである。多くは肉食性だがイグアナ カメ類、ヘビ類、ワニ類など、ほぼ6000種に ではこのような魚類→両生類→爬虫類→哺乳類 「鱗」があり、4本の「足」と、「尾」がある。 さて脱線が過ぎたが、爬虫類は、約3億年前、

> 性化」で、全生物の9割近くが絶滅する事件が、 カンブリア紀以降、直近5億年間に5回も繰り返 化を促す原因となった。 しく変える。その主たる激変は「酸欠と海水の酸 し、火山噴火や海底噴火を起こして地球環境を著 している。こんな事の繰り返しが、逆に生物の進 し上層部のマグマが地殻の薄い所から表面に噴出

燃やし過ぎ、地球温暖化が極端に進めば、第6の 本当に「バカ」なのかという話題になった。即座 亡などまっぴらである。最近ある会合で馬や鹿は 大量滅亡に繋がる。自然現象ならやむを得ないが、 に私は「人間の方が遥かにバカです」と答えた。】 【人類は便利さを求める浅慮のため、化石燃料を 八間の浅智恵で、他の生物まで巻き添えにした滅

壊し、皮膚がんなどで苦しんでいる。馬や鹿より 便利のために、フロンや代替えガス使用などで破 壊を防いでいる。そのオゾン層を、人類は安易な 球大気の外層でオゾン層を形成し、太陽からの強 酸素原子は3個くっついた「オゾン」となり、地 生命活動を活発化するように進化した。今やその くの生物は、毒物であった酸素を逆に利用して、 酸素は殆どなかったが、海中の植物性プランクト っている。生命が誕生して15億年くらいまでは、 大きなエネルギーを得る事により、生命活動を行 材から酸素を受け取り、酸素に電子が移動する時 大方は、ミトコンドリアという細胞小器官で、食 酸素があっては生存できない嫌気性菌もあるが、 力な紫外線をカットし、地球上の生物のDNA破 ンが光合成の副産物として酸素を作り出すと、多 人間がはるかに「バカ」だという根拠である。 さて地球上の生物は、ボツリヌス菌のように、

> 岐し、今日の人類に繋がる。 25億年前、キノドン1という恐竜の一種から分 復してくると、恐竜は巨大化し、更に哺乳類は2・ くらいの大きさであったが、徐々に酸素濃度が回 が滅亡した。その頃、恐竜の先祖は、まだトカゲ は極度の「酸欠」(酸素濃度35%から一気に1%)を起こ - 4) が起き、海流は停止または極端に乱れ、海水 年前、太平洋のど真ん中で海底大噴火(ヌーパープル 21%)、最大値であった。それが今から2億5千万 地球歴史上酸素濃度は最大3%もあり(現在は 給できたものではない。今から3億年前の頃は、 した。その為、海中生物の9%・陸上生物の7% しかしその酸素も、いつでも安定して生物に供

備えた哺乳類へと進化していった。】 発達し、わずかの空気でも生存できるように進化 が極端に低下した時、腹部肋骨を捨て、横隔膜が シベリアでのスーパープルームにより、 竜となり、2・25億年前、更に恒温性・体毛を した。それがアデロバシレウスという哺乳類型恐 【*1:キノドン亜目は、ペルム紀後期において、 酸素濃度

【爬虫類の文化面の逸話】

どが密着して箱のような構造をしている。 もので、甲羅は、脊椎骨、肩甲骨、 する。 爬虫類の中でも早期に出現 (Ξ)億年前) した ではないが、丹頂の鶴は80歳が最長とされている。 シャのリクガメが 14歳などの記録がある。爬虫類 寿記録は、モーリシャスでのゾウガメ 53 胴体を甲羅で囲まれる脊椎動物で、四肢動物に属 で長寿のシンボル。カメという爬虫類の明確な長 そして亀は、現生・化石を問わず、全ての種が 日本では古来、鶴は千年・亀は万年と、セット 肋骨、 ギリ

したリクガメ属の甲長 ダメヤ゚の ロ゚は、重量 00㎏。最小はシモフリヒラセリクの ユ゚メビ、重量 00㎏。最小はシモフリヒラセリク亀の大きさは、現生で、背甲の最大はオサガメ

南方は朱雀、西方は白虎が守護する。南方は朱雀、西方は白虎が守護する。と、洋の東西は一つ「玄武(玄は水の神=中国文化圏では霊獣四神の一つ「玄武(玄は水の神=中国文化圏では霊獣四神の一つ「玄武(玄は水の神=中国文化圏では霊獣四神の一つ「玄武(玄は水の神=中国文化圏では霊獣四神の一つ「玄武(玄は水の神=中国文化圏では霊獣四神の一つ「玄武(玄は水の神=中国文化圏では霊獣四神の一つ「玄武(玄は水の神=を問わず、亀は堅い守りの象徴であり、一方ではを問わず、亀は堅い守りの象徴であり、一方ではを問わず、亀は堅い守りの象徴であり、一方ではを問わず、亀は堅い守りの象徴であり、一方ではを問わず、単位を開かる。

れている。鶴は湿地帯など地上性で、雑食性。棲息し、15種類。多くの種は絶滅危惧種に指定さ鶴はツル目ツル科。南極・南米を除いて全大陸にげられる。ついでなので、鶴についても記載する。日本で、めでたい物の象徴として『鶴亀』があ

日本のタンチョウの鶴(丹は赤の意・留鳥。翼陽帳四段。 日本のタンチョウの鶴(丹は赤の意・留鳥。翼陽帳四段。 とツルとを混同したものと言われ、松竹梅のめでたい松の木に、無理に鶴を止まらせたものらしい。 一方、江戸時代、最高のもてなし料理として、 たい松の木に、無理に鶴を止まらせたものらしい。 一方、江戸時代、最高のもてなし料理として、 たい松の木に、無理に鶴を止まらせたものらしい。 一方、江戸時代、最高のもてなし料理として、 とツルとを混同したものと言われ、松竹梅のめでたい松の木に、無理に鶴を止まらせたものらしい。 一方、江戸時代、最高のもてなし料理として、 一方、江戸時代、最高のもてなし料理として、 とツルとを混同したものと言われ、松竹梅のめでたい松の木に、無理に鶴を止まらせたものらしい。 一方、江戸時代、最高のもてなし料理として、 本で、近ばり、 1~4個の卵 を産み30日で解化する。北海道のタンチョウの鶴(丹は赤の意。留鳥。翼陽帳四段。

人間の底なし食欲のために、自然界に絶滅

啓蒙しているという。 啓蒙しているという。 と、いつも疑問に思う。その点アイヌは、必要違 崇拝的観念なので、今、世界の民俗学研究者達は、 小限の食糧を、神様から分けて頂く…という自然 小限の食糧を、神様から分けて頂く…という自然 と、いつも疑問に思う。その点アイヌは、必要最 然保護の立場から、「アイヌを見習え!」と世界に が限の食糧を、神様から分けて頂く…という自然 が限の食糧を、神様から分けて頂く…という自然 が限の立場が増える一方なのは、果たして人間に、自

*

祖先ではないが、その同族が祖先と考えられてい 恐竜との根本的違いは、骨が中空。空を飛ぶのに が発見されている。代表的なのはプテラノドン。 代に生息した恒温性の爬虫類。最小はスズメぐら である。 とで四足歩行もしていたらしい。現生の鳥の直系 空が主体の飛行形式と考えられ、後ろ足と翼の指 適している。翼は膜構造。羽ばたくというより滑 いから、最大は翼長12260種類くらいの化石 ①翼竜:初めて空を飛んだ脊椎動物であり、中生 恐竜に似ているが、次の3種は恐竜ではない。 食から植物食まで多種多様。鶏大から、最大35%。 さて、 白亜紀に全盛を誇った化石脊椎動物。 爬虫類の代表はなんと言っても「恐竜」 肉

ーストラリアプレートが北上を続け、ユーラシアクルカそっくり。元々陸上で進化し、後、イルカイルカそっくり。元々陸上で進化し、後、イルカやクジラのように海棲に変化していった。世界各地で発見されているが、ヒマラヤの高地で海棲の地で発見されているが、ヒマラヤの高地で海棲の地で発見されているが、ヒマラヤの高地で海棲の地で発見されているが、ヒマラヤの高地で海棲の地で発見されているが、ヒマラヤの高地で海棲の地で発見されているが、ヒマラヤの高地で海棲の温が、地で海岸の地であるが、忠竜より早く②焦竜:大型海生爬虫類であるが、恐竜より早く②焦竜:大型海生爬虫類であるが、恐竜より早く②焦竜:

上付近から発見されている。 生動物の化石や貝殻が、現在、ヒマラヤ山脈の頂を続けている。それ故、太古において死滅した海現在でもインド半島は、年い、四の速さで平行移動軽いユーラシア大陸側は造山運動で持ち上げられ、日まで2000㎞も潜り込んで北上を続けている。日まで2000㎞も潜り込んで北上を続けている。大陸と衝突(4000万年前)。以後インド半島は、今

モナイトなど。四肢は完全に鰭(ひむ)状に変化。れる。胎生で体長は4・7点。主食は魚類やアンうが、恐竜ではない。プレシオサウルスに代表さまで繁栄。海生で、メディアは海の恐竜などといまの繁栄。海生で、メディアは海の恐竜などといるが上級電と枝分かれし、ジュラ紀、白亜紀の首長竜:ヘビやトカゲに近いグループである。

*

と大きく異なるのは、前肢が後肢より長い。その ③サウロポセイドン:白亜紀前期に北米に生息し 肢と尾だけで立ち上がっているがそれは不可能。 をほぼ垂直に立てることはできなかった。映画「ジ 定体重 50 ½。横隔膜がなく気嚢を持つ。他の恐竜 竜脚下目の草食恐竜。全長 2 タピ。 体高 1 タピ。 推 ②プラキオサウルス:ジュラ紀後期(ド億年前)~ 体長 33 m。 発見。竜脚類に属する。恐竜中最大と言われる。 在の北米に生息した草食恐竜。化石は1972年 ①スーパーサウルス:中生代ジュラ紀後期に、現 といっても恐竜である。そのビック3を挙げる。 ュラシック・パーク」のブラキオサウルスが、後 物を食べることができた。但しキリンのように首 為、肩は後方に向かって傾斜し、より高い所の植 白亜紀前期 (1・12億年前)、主に北半球に生息した 1日に 50 ㎏の植物を食べていたものと思われる。 さて、爬虫類のなかで主役であったのは、 推定体重40%。推定寿命10歳以上。

起こす神様)」に因む。 を長 28 以。体高 18 以 た大型草食恐竜。竜脚下目。全長 28 以。体高 18 以 かる恐竜のかちで最大であったため、史上最大の ゆる恐竜のうちで最大であったため、史上最大の いる恐竜であった可能性が高い。学名のポセイドンは 恐竜であった可能性が高い。学名のポセイドンは ひょう は かんしょう は かんしょう しょう は かんしょう しょう しょう は にょう は しょう は は しょう は は しょう は

>

魅惑の星を大切にしていきたいものである。の子孫から後年『よくやった』といわれるよう、もう少し控えめにして、環境保護に力を入れ、我々ある。この命あふれる惑星ゆえ、人類の欲望を、ある。こかなり脱線の連続であったが、人類が今日にかなり脱線の連続であったが、人類が今日に

地域に眠る埋もれた歴史(21) 木村 進

消えた真鍋公園と子規の宿

まったのです。
6号線を建設する際にその多くが削り取られてしだったといいます。それが昭和7年に現在の国道総公園と呼ばれ、桜の名所として知られたところと呼ばれる公園があった。この公園は一般には真と呼ばれる公園があった。この公園は一般には真

子は、のちに水戸紀行という文に書いております途中でこの公園に立ち寄っています。その時の様の常盤會寄宿舎から水戸まで徒歩で旅行しておりの学友菊池謙二郎の実家(平波湖脇)を訪ねて本郷て、第一高等中学校(現東大)の友人と2人で水戸正岡子規が明治22年4月3日から7日にかけ正岡子規が明治22年4月3日から7日にかけ

本郷から千住-松戸-我孫子を紹介しましょう。 ので、少しそこから旅の様子を紹介しました。 当時 2 軒しか旅館がなく夜泊 (銚子屋) しました。当時 2 軒しか旅館がなく夜泊 (銚子屋) しました。当時 2 軒しか旅館がなく夜 出ました。土浦で昼になったのですが、以前から 出ました。土浦で昼になったのですが、以前から 出ました。土浦で昼になったのですが、以前から 出ました。 世末で昼になったのですが、以前から 出ました。 世末で昼になったのですが、以前から たこの公園に登ってみたのです。 するとそこから を頭の霞ヶ浦が見渡せて大喜びしました。

「霞みながら 春雨ふるや 湖の上」

られたようになっている」と書かれています。で、容易には上れないままに、町の一角に忘れ去なときけずり取られて、現在は石段も崩れたまま版していますが、「この公園地も、六号国道ができが水戸紀行の道筋を自ら訪ねて歩き、解説本を出が分かりませんでした。昭和24年頃に柳生四郎氏しかし、私にはこの公園が地図を見てもどこかしかし、私にはこの公園が地図を見てもどこか



真鍋公園の明治 40 年頃の絵葉書 (よろずや商会絵葉書ギャラリーより)

21年11月)。

ちらへ曲りして家數も可なりありげに見ゆ」と書 なっています。飯もうまくなく対応にもいたたま きるから上がれといわれ、仕方なく上がって観察 い、そこで、小さな旅籠にいって頼むとすぐにで に用意ができないと断られ、街外れまで来てしま いなところで飯を作ってもらおうと入ったがすぐ す。また、昼時だったので飯を食おうと宿屋みた かれており、昔の城下町の特徴をよく現していま 街道の一すぢ道にはあらず少しはあちらへ曲りこ 浦宿中心地からも1 ㎞ くらいしか離れていませ れずそっと外に出ると向かいに車屋がありよろこ するとどうもそこは「曖昧屋」だと気がついたと ん。正岡子規の文にも土浦について、「土浦の町は 霞ケ浦を眺めたのです。 れた足でまた歩き始め、そしてこの真鍋公園から んで頼んだらあまりにも法外な値段を言われ、疲 真鍋宿といっても土浦宿のはずれに当たり、土

薄くなってしまったようです。その中に「藤本蚕ますが、すぐ横を国道が走り、昔の面影はだいぶが残っています。蔵などもまだいくらか残っていこの真鍋宿は主に土浦一高下の坂道にその面影

田にあります。種製造業の総元締の会社で現在もその歴史館が上種製造業の総元締の会社で現在もその歴史館が上藤本蚕業は蚕業で栄えた長野県の上田にあった蚕業株式会社支店」と書かれた建物がありました。

りますが、佐久良東雄は25歳から8年間、この 受けるイメージはだいぶ違います。 思われます。 真鍋の宿場の水として重宝がられたに違いないと 井の井戸」というきれいな井戸があり、昔はこの 獄中で死亡しています。また寺の入口左手に「照 墓があります。大久保も安政の大獄で投獄され、 架かる額(聖観音)は東雄の書だといわれています。 国指定史跡として佐久良東雄の生家(飯嶋家)があ ると寺に出られるので、宿場につながった寺だっ 派の寺があります。 ろを探してみるのも何の知識もなく訪れたのとは した。こうして昔の書物などで書かれているとこ 土浦藩がこの井戸を保護していたと記されていま 街道沿いでもあったので憩いの場でもあったろう。 る東雄の墓のとなりには土浦藩の英才大久保要の と断食して獄死しました。また、境内の墓地にあ くまったとして投獄され、「徳川の粟は食えない」 善応寺の住職をしていました。この寺の観音堂に たと思われます。この寺に石岡生まれの「佐久良 佐久良東雄は桜田門外の変の後、水戸浪士をか 土浦の真鍋宿には「善応寺」という真言宗豊山 (さくらあずまお)」の墓があります。 説明では、鎌倉街道にも近く、水戸 宿場町の途中からも脇道を入 石岡には、

宿の待遇に大いに喜んで下記のように記述していまりました。雨で寒くて気分も滅入っていたので、中貫~稲吉を通って石岡の萬屋(よろずや)に泊さて子規のその後の記述に石岡が出てきます。

ます。

受けとりてこゝをいで行くに筑波山は昨日のけし 戸へおいでにならば御定宿ありやと 余なしと答 りかゞめたりしながら枕の底へいたづら書なとす 代にくらぶれば數段上と覺えたり 足を伸ばした きに引きかへていとさやかに見られける」 ふ さらば何がしといふ宿へ行き給へ おろそか ……はたごやを出でんとするに家婦いはく 水 岡は醤油の名處也 經て感心にも石岡迄辿りつき萬屋に宿を定む 過して筑波へは行かず草臥ながらも中貫、 には取扱はじといふ 案内状まで添へければそを 「…筑波へ行く道は左へ曲れと石の立ちたるを見 さまて美しくはあらねどもてなしも厚き故藤 萬屋は石岡中の第一等の旅店 稻吉を 石

明治28年に日本新聞の社員として日清戦争の取 規庵に住んだのは明治 27 年から 35 歳で没する約 われたホトトギスの異称)と号しました。東京上野の子 月でした。この時から「子規」(血を吐くまで啼くとい ます)。この紀行文を書いたのは帰京後半年後の10 ます(自身、水戸紀行の前文で紀行文を書く動機として述べてい れが後の病に伏せる原因に成ったとも言われてい ようです。帰京一ヶ月後の5月9日に喀血しこ 子規が若さにまかせての無理な徒歩旅行であった は上野まで列車に乗っていますが、元来体の弱い わかります。この水戸紀行の途中雨が降り、 相手にされなかったようでもあり、当時の様子も 経由で鉄道が走っており、徒歩で街道を旅行する てて宿を替わっています。当時水戸は東北線小山 介してもらった宿屋に入ったが待遇が悪く腹を立 人も減ってしまい、靴も履いていない汚い学生は 3 日目は石岡 - 長岡 - 水戸上市へ行き、萬屋で紹 (年間です。実際の発病は子規庵に移った翌年の 帰路

> 療養するようになるのです。 材で大連に渡った時に喀血し、神戸に戻って入院

鉱からの石炭輸送でした。 並からの石炭輸送でした。 さて、水戸紀行の書かれた明治22年には現在の ながらの石炭輸送でした。 がありの石炭輸送でした。 ないらの石炭輸送でした。 がいます。しかし、開通当時の最大の目的は常磐炭います。しかし、開通当時の最大の目的は常磐炭います。その後東京田端~ 上浦間の鉄道開通は明治29年12月です。これに 土浦間の鉄道開通は明治29年12月です。これに 土浦間の鉄道開通は明治29年12月です。これに 大り現在の常磐線の上野~水戸間がほぼ開通して との時 で、この時 で、この時 で、この時 に石岡駅が開設されています。その後東京田端~ とので、この時 にの時 にのは、 にのるのる炭輪送でした。 とのるのる炭輪送でした。

正岡子規が水戸へ旅した時は、水戸は東北線と 正岡子規が水戸へ旅した時は、水戸は東北線と 正岡子規が水戸へ旅しため、宿も徒歩での旅行者 鉄道でつながっていましたのと思われます。また、 東京〜高浜間に汽船 (高浜汽船) が就航しており、 東京〜高浜間に流船 (高浜汽船) が就航しており、 東京〜高浜間に大船 (高浜汽船) が、明治 25 年に汽船事業も解散せざるを得なくなが、明治 25 年に入口では、水戸に対しています。

時から夜7時半頃までです。ど)間を上下7本ずつ列車が走っています。朝7時刻表が載っています。上野~仙台(または平な郎著)には、明治3年当時の常磐線石岡停車場の明治3年に発行された「石岡繁昌記」(平野松次明治3年に発行された「石岡繁昌記」(平野松次

の広告を拾うと、… またこの「石岡繁昌記」に載せられている旅館

石岡停車場前) (第一、第二支店:温泉…上州草津温泉開始仕り候、 員御宿館、糸繭商店宿…石岡警察署真向 香丸町) 「香取屋」(本店:陸軍御官衛御用旅館、商店銀行

「用旅館、繭糸蠶(かいこ)種各御商人御定宿「勉強旅館:橋本平八」(常州石岡町):陸軍御用

骨丸町、支店:停車場前) 賃候、御休泊共鄭重懇篤に御取扱申べく候 (本店:「旅館:萬屋増三」:四方御客様益々御機嫌克奉欣

…となっています。

同じ通り沿いの橋本屋旅館 (現:ホテル橋本楼) さん 門に別れ、玩具部門は少し土浦寄りに移ってピノ は鍵屋玩具店さんであり、この店が楽器と玩具部 りの突き当たりのカギヤ楽器さんのところで、元 を建立しました (2年前)。場所は通り沿いの更に と思われます。石岡でも有志の方が正岡子規の碑 ので萬屋旅館さんは今のカギヤ楽器さんの場所だ ると書かれています。しかし場所が移っています のご主人橋本平八郎氏に教えていただいた場所が 生四郎氏解説の水戸紀行(ふるさと文庫)によると、 キオトーイという玩具屋さんになっています。柳 の水戸街道沿いにあったようです。駅前の八間通 店があったようです。子規が旅したときは、 土浦寄りにある金刀比羅神社の境内です。 ピノキオという人形とおもちゃの店のところであ ここに書かれている「萬屋旅館」は駅の近くに支 中町

「二日路は筑波にそふて日ぞ長き」

ます。 われます。またもう一句ここで詠まれた句があり この句は石岡の手前の様子をうたったものと思

「白雲の蒲團の中につゝまれて

着替えは出していなかったとのことです。ったころの宿賃は50銭くらいで、宿では当時客にって、柳生四郎氏の記事によると、子規が泊ま

母島に父をみた(2)

伊東弓子

らは、五代目が運行されるそうだ。四代目としての役目を後二カ月で終える。七月かで竹芝桟橋を出航した。この「おがさわら丸」は五月九日(月)午前十時発の「おがさわら丸」

いれて、 さって。 こう までして、これでは、これで、これがいることが不思議な気もする。 て房総半島も見えなくなって空と海のみ。そこにつかない色だ。何を意味している色だろう。やがかな東京湾内での水の色は、灰色とも茶とも

が、1 はのででででででででででででであった。 旅の二日目、よい目覚めだった。十一時半頃、 らかの薬を飲んでいるのも、老いに入ったのだと、 らかの薬を飲んでいるのも、老いに入ったのだと、 をゆっくり語り合える一時、食べたり飲んだり出 揺れは大きくなった。忙しく過ごしてきた人生

って思わず退けてふらついた。
て休むのか、と思ったりしていると水飛沫が掛か飛んできたか。こんな水面ばかりの所でどうやっ父島だ。いよいよ来た。もうすぐだ。鷗も挨拶に島が見え始めた。左、水平線上に長く長く続く島、旅の二日目、よい目覚めだった。十一時半頃、

無理すない。

「無理すない。

「無理すない。

「田子日、今日は父母の結婚記念日で、お茶飲のはがら話を聞くのが常だった。母は父亡き後、みしながら話を聞くのが常だった。母は父亡き後、みしながら話を聞くのが常だった。母は父亡き後、みしながら話を聞くのが常だった。母は父亡き後、

乗りいえた。 父島の二見港に入って小ぶりな「ははじま丸」にづくにつれて海の青さが一層増してくるようだ。 一 今日は母島で美味しいお茶を飲もう。母島が近

いて出来上がった島の歴史を物語っている)

中国的が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見え始めた。山の間の窪地で誰かが、呼母島が見えが見ればいる。

メーフ」に、やっと落着いた。この地に足を入れて、民宿「クラフト・イン・ラ・の切実な願いから四十年の願いを背負って三人で気持ちでいっぱいだ。父の思いから七十一年、弟は海軍兵として働いたのだろう。早く早くという

い日のように安心して床に就いた夜だった。めてくれるとの事だった。父に抱かれて眠った幼か。よい返事が返って来た。連絡して都合を確かか。よい返事が返って来た。連絡して都合を確かった。そんな話のやり取りの中で聞いてみた。町うだ。そんな話のやり取りの中で聞いてみた。町

っている。小さなバナナも美味しそうだ。う感じがする。レモン、蜜柑もまだ青いが沢山な紫、赤、黄色の花がとても奇麗だった。南国とい散策に向かう。道に沿って「たこの木」が続く。三日目、十一日(水)。三人とも疲れもなく街の

なった話を聞いた。時の人達が旗を立てた、という事で日本の領土とあった。江戸時代和歌山県の人の舟が流れついた 石段を登った所に月ヶ丘神社、琴平さま、寺が

が三軒あった。人口は六百人位で誰もが顔も名も歩いて一キロの所に人家、商店(農協、漁協、個人)

るよ」が挨拶だった。
下がっている。「訪ねてくる人は突然だからな。困ぐの所から所狭しと本が積まれている。書も沢山ぐの所から所狭しと本が積まれている。書も沢山ら。住居の裏は崖、島には平らな所がないという。

らない銭(すぐ新円切り替えになった)を貰って帰って 行ったことだろう。本当によかったと思われるお お父さんもDDTをたっぷりかけられ、足しにな たそうだ。二十年の暮れに帰れたのは早い方で、 近に感じた。米軍は魚雷も打ったが海に流してお の湾を出た近い所だった記録があるという話に身 父の話していた沈没のことは遠くではなく、母島 残りの爆弾を落としていったのも度々だったとか。 という話も残っているという。東京大空襲の後、 軍の食糧不足は大変だったようだ。その時亡くな 数的には陸軍は多く、海軍は少人数であった。陸 いて触れた時、船が爆発したという事もよくあっ った人が山道に度々現れるとか、あった人もいる 硫黄島への物資輸送、通信などが主であった。人 のもとで作業にあたっていたと思われるという。 一人です、と話しを締じてくださった。 この島は規模、地形上からもすべて父島の配下

いていた。

が署、村役場、支庁出張所、診療所など役所が続勝署、村役場、支庁出張所、診療所など役所が続本の歴史が繋がったことに三人で素直に喜んだ。本の歴史が繋がったことに感謝した。父とこの島と日せてくださったことに感謝した。父とこの島と日沢山の資料の中から夕べ、今朝と確認して聞か

沢山ある。屋根はヤシの葉、煉瓦の門、そこを出小笠原村の郷土資料館といい、歴史を知る資料が気分がよく遠回りして、ロース記念館に寄った。

亀の産卵だけを見に行った。て歩いた。夜は星も蛍も見ることは無理のようで、されている。 心遣いが嬉しいと、声に出して言って町の中を行くと、現在の町名の傍に旧町名が示

四日目十二日(木)洗濯は起きてすぐ行うが、

家へ送っておいたと、言ってくれている。いると、先生が来てくださった。出てきた資料を南崎トレッキングが始まる前、靴底を消毒して今日は大部歩くが大丈夫かと確認し合う。弟はすでに終っていた。朝食前のお茶で顔合わせ、

焼跡の片付けもしたという話もあった。れたがその侭だったという。昭和十八年に召集されたがその侭だったという。昭和十八年に召集さも海軍の通信があったが、?が酷く硫黄島に戻さしじみ蝶の保護に力を入れているとか。乳房山にの作業をしている若い男女のグループと合った。とかげ、グーンアノル、森のら猫。蟻の巣退治

ろう、もう一つは風呂場の浴槽とのこと。ほかに と後髪ひかれる思いで次へむかった。 がない。なのに、ここで働いている父に合いたい な気がした。家に戻ったのだから、ここにいる筈 高い所迄、重い荷を運び、急ぎ作業をし、不安に しい。藤沢八十高地海軍省施設跡だった。こんな ある。村道の右山の中を歩くと、弾薬庫があるら った。洗い場もある。兵舎跡の敷石があちこちに 直ぐ近くにポンプもあった。陶器や瓶の欠片もあ つあった。一つは水を入れた物(いろいろに使ったのだ もっと狭かったと思われるが)大半登りきった所 ひとだった)藤沢の坂を上って行く。 二人の案内の人と車に乗った。(若い女の人は美浦村の 待も増す。東京へ行くという先生を港で送って、 視察に行く三人にとって待望のコースである。 た所だと確認した。何処かから父が出てくるよう 兵隊さんの呻き声が聞こえてくるようだ。 父の居 かられながらの毎日、どんなだったろう。沢山の 大きな鍋、釜を使用出来る三口のレンガの釜処、 に止まった。大きなコンクリート製の構造物が二 十三日 金 五日目。戦跡めぐり海軍省施設跡

を呼んでいるかと思った所だ。りた。ここは船の上から見えた所だった。父が私指の地蔵尊、何か淋し気な東湾に寄って北港に降工の地蔵尊、何か淋し気な東湾に寄って北港に降本のではいていいが見える猪態湾の展望台、六本

この地で踏ん張った力で今もあちこちで頑張って前の強制疎開であちこち分かれていったという。心となって沢山の子供達と一時代を築き、敗戦直工で盛えた時期もあったそうだ。小学校も村の中が周囲に田畑をもち、農業で、煙草で、鯨肉の加ったその様子が立看板に残されていた。一軒一軒ったその様子が立まっすぐ降りる両側に、人家があ山道を浜辺迄まっすぐ降りる両側に、人家があ

為か、三人でお喋りが尽きなかった。いよ」と訴えているようだ。その晩は興奮した所た学校の跡の門が「もう戦争へ行かす子は育てないる筈だ。と、忠魂碑の前に立った。大藪になっ

ろう。石の上に町で拾った花びらを飾り、折鶴を 声も高くなり、涙して興奮している三人だった。 迎えてくれたようだ」など盛り上がって唾も飛び 私、名残がつきない。 お合いしましたよ」と大声で山に呼びかけていた が多くの人の霊に安らぎを与えてほしいと、回向 並べ、線香を灯して手を合わせた。弟の読経の声 もこの土に染み込んでいるだろう。兵舎の外れは められ、ただ働き同志の毎日どんなだったろう。 で、きっと大勢がいたのだろう。ここで一年半、 奥の方迄、敷石のある所を歩いた。随分広い場所 もう一度行こうが三人の気持。昨日よりゆっくり いたようだった」「親父が、来たのかと仁王立ちで して山を降りた。今日も上天気。「お父さんのもう 次の朝亡くなっていたという仲間の無念の血も涙 天皇の名のもとに上官から殴られ、弱い者ほど虐 一度来たかった母島へ来ましたよ。戦友の方々に 十四日(土)。車を借りて好きな所へ行く日だ。 私だけでなく妹も弟も「お父さんが走り回って 海に涙し、月に家族の無事を祈ったことだ

を海に投げ回向を済ませた。であろう方向に向かって弟の読経と花びら、折鶴湾を出て大きく曲がる辺りで、父の船が沈没した太鼓の上手な名物おじさんも送ってくれた。船が次十五日(日)。午後二時、島の人、民宿の人、

ることをご報告しましたよ」と小さい声で海に流も奇麗ですよ。戦友の方々の霊に、今私たちのあ「お父さんのもう一度見たかった青い海、今で

してきた。

父だった。

Vだった。

のいて寝ていた私五歳、妹三歳、弟一歳の前にやつれた二等兵の姿の父が立っていた。リュック以ついて寝ていた私五歳、妹三歳、弟一歳の前にや四ヶ月後十二月に帰って来た父。黒い部屋に灯が四か月後十二月に帰って来た父。黒い部屋に灯が四が月後十二月に帰って来た父。黒い部屋に灯が四が月後十二月に帰って来た父。黒い部屋に灯が四が月後十二月に帰って来た父。黒い部屋に対が四が見る。

県指定文化財(19)

兼平智惠子

げます。 様の励ましのお蔭様と改めまして厚く御礼申し上迎える事が出来ました。これもご愛読頂いてる皆まいました。「ふるさと風」は本年五月で十周年をすが出来ました。「ふるさと風」は本年五月で十周年を

(土)より七日(水)まで、石岡市まちかど情報(土)より七日(水)まで、石岡市まちかど情報で、大田で大化力について…」白井啓治代表によるます。期間中三日(十四時より)、四日(十三時半よります。期間中三日(十四時より)、四日(十三時半よります。期間中三日(十四時より)、四日(十三時半より)ます。期間中三日(本のさとば絵展(絵と一行文を楽しむ八人グループ)そしております。

今回の県指定文化財の紹介に入ります。

〇佐久の大杉 天然記念物

石岡市佐久(旧八郷町)地区に鎮座する鹿島神社指定 昭和一六・三・三一

まず旧石岡より石岡市八郷支所に向かいます。八で約二十五分位で行くことが出来ます。この鹿島神社へは旧石岡市内(石岡駅あたり)より車の神木として「佐久の大杉様」と呼ばれています。

越え間もなく左折すると神社の前に到着です。 域え間もなく左折するを渡り信号のない十字路を側に「魚のぶ」という魚店さんの先を右折、間も路を右折、曲がりくねった道を二・三分走ると右房のある十字路を真っ直ぐに進み、間もなく丁字郷支所を左側にして後方を走り過ぎると最初の信まず旧石岡より石岡市八郷支所に向かいます。八

いる。

が樹皮をお守りにして、戦地に赴いたと言われての樹皮をお守りにして、戦地に赴いたと言われて、戦時中は出兵兵士が社に武運長久を祈願し、こ

れている。 に派遣された国司の末裔がお手植えされたといわると、大化改新 (六四五) の頃、大和朝廷から地方樹高は約二九m、幹回り約九mの大杉は伝承によ

まいました。 室町時代の応永三四年(1四三七)十一月の神社室町時代の応永三四年(1四三七)十一月の神社を計算を記述して、 を言われたことが、今でも語り継がれている。 を言われたことが、今でも語り継がれている。 と言われたことが、今でも語り継がれている。 を言われたことが、今でも語り継がれている。 を言われたことが、今でも語り継がれている。 と言われたことが、今でも語り継がれている。

葉の色つやも衰えてきました。変容した姿も平成八年頃から樹勢が衰退し始め

ている事が分かりました。 依頼したところ根を取り巻く土壌の環境が悪化し地元佐久に大杉保存会が結成され樹木医に調査

(合併前)、佐久の大杉保存会、樹木医が一丸となり、平成九年から十二年にかけて、茨城県、八郷町

樹勢回復の治療に取り組みました。

した。 注入が施され着葉量も増加し緑も濃くなってきま 土壌改良、大枝の落下防止の為の特殊な樹脂の

歩廊が寄贈されました。するために、樹木医の橋本憲一氏から見学者用の又、土壌改良により発根した多数の細根を保護

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

能性もあると思われている。

ないの領点にはにいる。

ないの領点にはいて、祭祀を行う時のが発見され、古代社会において、祭祀を行う時のが発見され、古代社会において、祭祀を行う時のが発見され、古代社会において、祭祀を行う時のが発見され、古代社会において、祭祀を行う時のが発見され、古代社会において、祭祀を行う時のが発見されている。

もと穏やかな暖かい陽に包まれていました。伸びた大枝に杉葉付けた佐久の大杉様は、青空の震え上がった次の日、巨木の太さと力強い幹からこの時期十一月に珍しく雪に見舞われ、寒さに

※参考資料 いしおか一○○物語

現地説明板

千三百余年の命を誇る佐久の大杉様 智惠子風雪に耐え戦乱の世に立ち向かい

旧上岡小学校

校舎で、明治 12 年4月 20 日に創立されましたが、旧上岡小学校は、明治時代に建てられた木造の大子町の旧上岡小学校を見に行って来ました。

なりました。 児童数の減少などで平成 13 年 3 月 31 日に廃校と

囲気がそのままありました。校の備品などもそのまま残されており、当時の雰窓ガラスをはじめ建物の殆どが昔のままで、学

室などに活用されています。 て活用されているほか、地域住民の陶芸や絵画教現在は、映画やテレビドラマなどのロケ地とし

岡小学校で撮影されました。小説「花子とアン」の阿母尋常小学校はこの旧上小説「花子とアン」の阿母尋常小学校はこの旧上私も楽しみに見ていたNHKの朝の連続テレビ

す。

ではなく、その当時の子供たちの姿や、運動会はではなく、その当時の子供たちの姿や、運動会はではなく、その当時の子供たちの姿や、運動会はではなく、その当時の子供たちの姿や、運動会ま際のこの小学校を訪れてみると、懐かしさだ実際のこの小学校を訪れてみると、懐かしさだまで

ことが必要に思います。
をしないで、人々の集う所としての保存を考えるの利権だけで新しいものを建て替えたりという事の利権だけで新しいものを建て替えたりという事の利権がはでが、人口減少や交通手段の発達で地域の集まり場所

てみることをお勧めします。 時間がありましたら、ぜひ旧上岡小学校に訪れ

【風の談話室】

小林幸枝

《読者投稿》

万葉落語「妹待つと」 京都府精華町 今井 直

「ご隠居はん、仕事を辞めて退屈やおまへんか?」

楽しいな」
ろか!近頃テレビはつまらんので、本を読むのがらか!近頃テレビはつまらんので、本を読むのが向かったり、他にも趣味が色々とあって退屈どこ「いやいや、季節の野菜を育てたり、パソコンに

大和には 群山あれど とりよろふなんは、舒明天皇の国見のお歌や。「そうやなぁ、『万葉集』は面白いで。わしが好き「わてにも読める易しいのありまっか?」

ユミウエウエウ ウミン国で、国原は けぶり立ち立つ 海原は天の香具山 登り立ち 国見をすれば

「そんな長い歌を、よう覚えはりましたな。蜻蛉島(あきづしま) 大和の国は 」かまめ立ち立つ うまし国ぞ

神主

事や。ヤマトタケルもこんな歌を詠んでるな。 でいい でいい でいる はいい やんの言うとおりで、まさに祝 に登って眼下を一望すると、飯を炊いている煙 付われるのが、国見という行事でな。天皇が香具 行われるのが、国見という行事でな。天皇が香具 でまる。 民衆の暮らしが豊かで、争いのない平 前える。 民衆の暮らしが豊かで、争いのない平 はいい やんの言うとおりで、まさに祝さんが唱える祝詞(のりと)みたい!」

「その『まほろば』って、どんなロバです?」 青垣 山隠れる 倭しうるはし 」 伝は 国のまほろば たたなずく

てても仕方ないな」
「ロバやない!美しく素晴らしい所を、『まほろば』やな「なーん、わてらが暮らす国は『まほろば』やな「なーん、わてらが暮らす国は『まほろば』やな「なーんな格差社会に誰がしたなんで、あないり」

けど、この歌はよろしいなぁ」さんの祝詞やお経は、意味がさっぱりわからへん。「余り大きな声では言えまへんが…神主さんや坊

今日のみ見てや 雲隠りなむ 」ももづたふ 磐余(いゎれ)の池に 鳴く鴨を「清やん、こういう歌を知ってなさるか?

「げッ、くたばるッて…えげつないなぁ」「が食べたい、言われて嫁は泣くかも…」「桃食べたい、言われて嫁は泣くかも…」「桃食べたい、言われて嫁は泣くかも…」「桃食べたい、言われて嫁は泣くかも…」「桃食べたい、言われて嫁は泣くかも…」

めみこ や」
ひとつ年上で、母君は鵜野讃良皇女(うののささらひいだ)のとの年上で、母君は鵜野讃良皇女(うののささらひ)でお二人とも天武天皇の皇子やけど、草壁皇子が

「お母んの名前が、うるるとさらら…」

「違うがな、鵜野讃良皇女という皇后さんや。大下違うがな、鵜野讃良皇女という皇后さんや。 世裕二みたいなタイプやな。もう、若い頃のわし田裕二みたいなタイプやな。もう、若い頃のわしますが幼い頃に、早うして亡くならはったんや。皇子が幼い頃に、早うして亡くならはったんや。里子が幼い頃に、早うして亡くならはったんや。は本子で、ファンクラブまで出来たちゅう話や。歳間裕二みたいなタイプやな。もう、おいりとした解野讃良皇女という皇后さんや。大「違うがな、鵜野讃良皇女という皇后さんや。大「違うがな、鵜野讃良皇女という皇后さんや。大

「放っといてんか!草壁皇子のほうはいつも顔色今はえらい変わりようでんな」「うそッ!ご隠居はんが昔、イケメンやったら、

「ゝゝゝゝゝ、頁が良ゝて幾四こ富み、ト丙でらよ「ゝゝゝ。」 その娘もからだが弱いんで…」お相手は石川郎女(ぃらっめ)という」「ヘぇー、頼りないですな、黒壁はんは」が悪く病弱なお方で、おまけにマザコンときてる」が悪く病弱なお方で、おまけにマザコンときてる」

気№1の若きプリンス・大津皇子と熱々の仲とい気№1の若きプリンス・大津皇子と熱々の仲といも恋が上手やから、誰も放っておかへんがな」「ええなぁ、そういう娘♥安室奈美恵みたいな…」「ええなぁ、そういう娘♥安室奈美恵みたいな…」「ええなぁ、そういう娘♥安室奈美恵みたいな…」「たっが、想像は清やんに任せるけど…派手なっと可愛い娘や。頭脳明晰、容姿秀麗、才色兼備っと可愛い娘や。頭脳明晰、容姿秀麗、才色兼備っと可愛い娘や。頭脳明晰、容姿秀麗、才色兼備っと可愛い娘や。頭が良くて機知に富み、小柄でちょ「えッ」 恋!! その姉もからだが張いんで…」

「こりやアカンで、黒壁はんは」

われ立ち濡れぬ 山の雫に 」あしひきの 山の雫に 妹待つと 妹待つとが恋人の郎女にあてて詠んだ歌が、

「恋仲の関係を妹背という。男は愛する女(おなご「恋仲の関係を妹背という。男は愛する女(おなご「恋仲の関係を妹背という。男は愛する女(おなご」で持っても来ないから、待ちくたびれて僕はすってお子と呼び、女は恋しい相手を背子(せこ)と

あたいはその雫になってみたい、あんたを濡ら吾(a)を待つと 君が濡れけむ あしひきのこれに対して、郎女の返事の歌が、

みぃ、わしでもその気になるがな」こんな風にちょっとスネたふりして、男に甘えてしたというその雫に…とな。清やん、可愛い女が

「それで?(と、身を乗り出す)」

るな」
「この恋は初めッから、草壁皇子に勝ち目は無い「この恋は初めッから、草壁皇子に勝ち目は無い「この恋は初めッから、草壁皇子に勝ち目は無い

な歌も載ってるんでっか?」「あ、そういうの好きやねん!万葉集ッて、そん

口やが、芋はお好きかな?」「(突如、話題を外して) 清やん、お前はん酒はいける

炉裏で焼いてるんや」「徳島の友だちから鳴門金時が届いてな。この囲「や島の友だちから鳴門金時が届いてな。この囲「い……芋?(がっかりして)ヘツ、何や芋かいな」

「どうも芋は好かんで…お構いなく!」

の時から伊勢神宮に仕えていらしたんや」天皇の名代で、斎宮というお役目のため、十四歳(おおくのひめみこ)という。このお方は父君・天武「大津皇子には二つ年上の姉君がいて、大伯皇女

「へぇー、ご苦労さんですな」

てたけど、バリバリ仕事が出来る大津皇子には、「天武天皇は皇后の手前、草壁皇子を皇太子にし

れへん」
は今しかない。『胃が痛とうて…』なんて言うてらは今しかない。『胃が痛とうて…』なんて言うてらしもうた。草壁皇子は、ライバルをやっつけるのしもうた。草壁皇子は、ライバルをやっつけるのかなりの信頼を置いてらした。ところが天皇が崩かなりの信頼を置いてらした。ところが天皇が崩

「それでどうなりました?」

らん」
におしあえるのは、今や姉君だけしかおいを許して話しあえるのは、今や姉君だけしかおいを許して話しあえるのは、今や姉君だけしかおらせやろうか、姉君に会いに伊勢まで行ったんや。らせやろうか、姉君に会いに伊勢まで行ったんや。

「(さらに身を乗り出して、固唾をのむ) ・・・・・」

たで。清やん、ひとつどうや」この世で最後の別れになるやも知れん…芋が焼けうとしてるのを感じてたんやろう。もしかしたら「大津皇子は、自分の身に何かどえらい事が起ろ

せ。焼き芋は女・子供の食べ物で…」「ご隠居はん、芋なんて男の喰いもんと違いまっ

ない…この焼き芋、旨いでぇ」
子を大和へ帰さなならん。できる事なら帰しとうれるのは憚れるやないか。夜が明ける前に大津皇弟でも真夜中に二人でいるところを、誰かに見ら君は神さんに仕える巫女さんやから、なんぼ実の「鳴門金時やから旨いで。無理には勧めんが…姉「鳴門金時やから旨いで。無理には勧めんが…姉

は?

争いッて怖いもんですなぁ。で、伊勢の姉ちゃん

「へぇー、叔母と甥、腹違いの兄弟やのに、権力

こ」「芋喰うたら、屁ばっかり出るから嫌いやちゅう

は山道の落ち葉を踏みしめて、もうどの辺りまで姉君は見送った後も、独り立ちつくしたまま、弟朝靄がたちこめてしーんと静まりかえった早朝に、く逃げへんから、心から愛おしく誇らしい弟や。く追がかたらお食べ。弟にはこの先、きっと過酷「よかったらお食べ。弟にはこの先、きっと過酷

暁(あかとき)露に 我が立ち濡れし我が背子を 大和へ遣(や)ると さ夜更けて越えて行っただろう、と思いながら詠んだ歌が、

とな」
ていたら、朝露にすっかり濡れてしまいました…
愛する弟を見送るため、朝早く表に立ちつくし

「愛しい石川郎女を奪われた草壁皇子の方はこけ「愛しい石川郎女を奪われた草壁皇子の方はこけ「愛しい石川郎女を奪われた草壁皇子には謀反のにされて、全然面白うない。『大津皇子には謀反のにされて、全然面白うない。『大津皇子には謀反のにされて、全然面白うない。『大津皇子には謀反のにされて、全然面白うない。『大津皇子には謀反のにされて、全然面白うない。『大津皇子におっしゃった。(軽い「お姉ちゃんまで濡れはりますか?」

「すげえーお母んやねえ!」

四歳の短い生涯を閉じられたのや」いくのかと、惜別の歌を残して、大津皇子は二十いくのかと、惜別の歌を残して、大津皇子は二十らのは、皇子がこの時詠んだ辞世の歌で、この水うのは、皇子がこの時詠んだ辞世の歌で、この水

察するに余りあるな。 亡骸は葬られた後やった。姉君の嘆きは、そりや鳥を見下ろす二上山(ふたかみやま)の頂きに、弟のには、最愛の明るく元気な弟の姿は既にない。飛「斎宮の任務を終えた姉君が大和に帰ってきた時

山を弟と思って朝な夕なに眺めましょう。深い哀この世にひとり残された私は、明日からはあの二上山を 弟背(いろせ)と我れ見むうつそみの 人なる我れや 明日よりは

泣かされるやないか」かり生きていこうという、その凛としたお姿にはかり生きていこうという、その凛としたお姿にはたい目で見られても、弟の菩提を弔いながらしっしみにつつまれ、世間からは謀反人の姉という冷

(鼻をクンクンさせ) 焼き芋…芋がええ匂いでんなぁ」 (鼻をクンクンさせ) 焼き芋…芋がええ匂いでんなぁ」 る大伯皇女が詠んだ六首は、すべて弟を想う歌や。 る大伯皇女が詠んだ六首は、すべて弟を想う歌や。 それからの皇女は歴史舞台から姿を消して、どう それからの皇女は歴史舞台から姿を消して、どう なったかわからんな」

うやな」
「相変わらず浮き名を流して、人生を謳歌したよ「(芋をほうばりながら) 石川の姐ちゃんのその後は?」

いでんな」 「うむー旨ッ!これ、ほんまに芋でっか?栗みた

旨ッ」「おおきに。よばれます。うむー。旨ッ、旨ッ、「鳴門金時やから…もっとどうや?」

「口にほうばったまましゃべったら、飛び散って「口にほうばったまましゃべったら、飛び散って

「ところが間もなく、草壁皇子はぽっくりと薨去「あとは、黒壁はんとお母んの思い通りに…」がなんなぁ (と、言いながらも嬉しそう)」

スこよる巨食正?」「くたばるッでっしゃろ?でも何でまた?ストレ

はんが死んだら…」

された。皇太子が亡くなると薨去。清やん、お前

「やはり大津皇子の祟りではないかと、大騒ぎに

「わての好物なんや、鰹のたたき」

方には浄土がある、神聖な二上山の頂に大津皇子「タタキとちゃうがな、タタリや。太陽が沈む西

る」のな、祟りを恐れたからと言われていが葬られたのは、祟りを恐れたからと言われてい

ようやなぁ」
「うるるとさらら…お母んは、ガックリでんな」「うるるとさらら…お母んは、ガックリでんな」
な軽皇子(かるのみこ)が成人するまでの間、即位しる軽皇子(かるのみこ)が成人するまでの間、即位しる軽皇子(かるのみこ)が成人するまでの間、即位しる軽皇子(かるのみこ)が成人するまでの間、即位しる軽皇子(かるのみこ)が成人するまでの間、即位してもがにないだようで、女性ながらなかなか卓越したである、このお方は、父君である天智天皇の血を「あぁ、このお方は、父君である天智天皇の血を「うるるとさらら…お母んは、ガックリでんな」

昼過ぎて 降ってくるらし 真っ白のはったあの歌……えぇっと、何やったかいな?「持統天皇いうたら、ご隠居はんがこの前言うて

パンツ干したり。雨の香具山。」

春過ぎて 夏来るらし 白栲(たき)の「このすかたん!持統天皇のお歌は、

衣干したり 天の香具山 やろ?」

んな」が、冷酷で怖いお母んやなんて、想像がつきまへが、冷酷で怖いお母んやなんて、想像がつきまへ「そうそう、それや。そんなきれいな歌を詠む人

ますッさかい|そろ帰らなあきまへん。女房(うちのやつ)が待ってそろ帰らなあきまへん。女房(うちのやつ)が待ってもうこんな時間や。ご隠居はん、おおきに。そろ「へぇ、昔の人も人生いろいろでんなぁ。あー、「人には二面性があるっちゅうことや」

歌を、紙に書いてくれまへんか?わてでも歌ぐらご隠居はん、大津皇子がエロ姐ちゃんにおくったはやっぱり焼き芋でんな!屁え出ても構いまへん。「あのう……わての分も貰えまっか?この時期にかな?もうじき次のが焼けるやろう」

つと、われ立ち…われ立ち…(立ち上がろうとするが…「あぁ、ええ歌や。あしひきの、山の雫に、妹待「(筆をとり) あしひきの 山の雫に 妹待つとい知ってるでと、女房に自慢したいんですわ」

んかなあ?」
「ああ、この芋は半生やな、ちょっとだけ待てへ「あ、足が、痺れ……あぁ痛たたた」
「清やん、何してるんや?足が痺れたんか?」

我立ちがたし 足のうずくに!」あしひきの 痺れもきれて 芋待つと「もう待てまへん! 大津皇子やないけど、

木下いくこ

終

活

3

○母の走り書きより… (1)

と言っていた。りとの会話で、何を言っているのかよく解らないりとの会話で、何を言っているのかよく解らない戸惑ったようだ。そう云えば夫も、地元のお年寄戸感の商家から嫁いだ母は、この地域の方言に

母のメモから…

「こんなやさしい挨拶が言えない若い私でした。」になると、お晩がたになりました。と、言います。「私は姑が、近所の人と交わす挨拶を良く聞いて、面倒を見てくれた。」 の土地での挨拶言葉も知らぬ私を、姑も夫もよくの土地での挨拶言葉も知らぬ私を、姑も夫もよく

「プライーでは、こうないでは、こうでは、こうでは、人が訪れると、姑が竃の火をかきだして

くれる様になりました。村の人も『良く仕事をやるねえ』と、声をかけてたらいう挨拶がすんなり言えるようになった時「初めてその言葉が言えた時は嬉しかったです。」

…今ではこういう挨拶も聞けなくなりました。

○母の走り書きより… (2)

昭和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田昭和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田昭和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田昭和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田田和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田田和21年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田田田田11年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田田田11年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田田11年「炎熱の中で田の草を取る。深い泥田田田11年

です…。
この後、母は大家族の中で居場所をなくし、5にの後、母は大家族の中で居場所をなくし、5にの後、母は大家族の中で居場所をなくし、5にの後、母は大家族の中で居場所をなくし、5にから、母は大家族の中で居場所をなくし、5

○母の走り書きより… (3)

野良着は実家から貰ってくるもんだ。」「子供が生葉の終わりに『もんだ』が付く事です。…「嫁はもんだ式と言ってもわからない???それは、言「この地に来て、辛かった事は『もんだ式』・・・」

「今度こそしっかりと挨拶しようと自分を励まし

〜他人がどう思うか〜〜昔からこう決まっている〜

の負担は相当なものです。の中は衣類でいっぱい…? 七つの祝い迄の実家生まれれば、ねんねこ半纏だけでも数枚、タンス性人の目ばかり気にする風潮です。赤ちゃんが

で生意気だとか色々言われましたが、次第に、頼りにされる様に…。隣近所の方からは、手紙の代りにされる様に…。隣近所の方からは、手紙の代事を頼まれて(非識字者が多かった)夜遅くまで、頼ま筆を頼まれて(非識字者が多かった)夜遅くまで、頼まで生意気だとか色々言われましたが、次第に、頼で生意気だとか色々言われましたが、次第に、頼で生意気だとか色々言われましたが、次第に、頼で生意気だとか色々言われましたが、次第に、頼いと言う人(不合理を指摘)

○母の走り書きより… (4)

間でしたね。

周りをぐるりとレンガと壁土で固めた深鍋型で、たったけれどゆったりとした、とても贅沢な時に浸かり乍らいちにちの疲れも、とれホットして、に浸かり乍らいちにちの疲れも、とれホットして、に浸かり乍らいちにちの疲れも、とれホットして、に浸かり下らいちにちの疲れも、とれホットして、に浸かり下らいちにちの疲れも、とれホットして、に浸かり下らいちにちの疲れも、とれまットして、に浸かり下らいちにちの疲れも、とても贅沢な時便だったけれどゆったりとした、とても贅沢な時間でしたね。

養生日記
堀江実穂

某月某日

る。では、いかでは、ことなのだが、不安に襲われが聞こえても自然なことなのだが、不安に襲われて眠れなの足音が聞こえて来て、不安感に襲われて眠れなの足音が聞こえて来て、不安感に襲われて眠れなる。

月日を教えてしまった。ったからだ。すぐに電話を切ったが、名前と生年ったからだ。すぐに電話を切ったが、名前と生年その時はまだ入院していて携帯も使えない時期だこれは詐欺グループのものだと漸く分かった。

着ドロボーなのだが、と。その翌日ぐらいだった。今度は洗濯泥棒にあったが、アパートの裏の道路に下着類だけが捨てったが、アパートの裏の道路に下着類だけが捨てったが、アパートの裏の道路に下着類だけが捨てった。 学服や下着や靴下、作業用の手袋までしまった。 学展は洗濯泥棒にあっ

神状態によるものなのか、と落ち込んでしまった。 こういう負の連鎖というのは、私の不安定な精

狸の名城の呟き》

打田昇三

相応の覚悟が必要であったろうと推測できる。 ら戦国時代に西国の人が箱根の山を越えることは 発達した現代でも、そう言う傾向は有るらしいか ちしい。関西にも茨木があるから地元で「イバラ らしい。関西にも茨木があるから地元で「イバラ 大阪から茨城県に嫁がれた女性が、実家周辺の 大阪から茨城県に嫁がれた女性が、実家周辺の

臣団を宥めたと伝えられる。 三河国を本拠とした徳川家康は、小田原の北条 三河国を本拠とした徳川家康は、小田原の北条 三河国を本拠とした徳川家康は、小田原の北条 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 藤は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 康は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 康は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 康は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系の源氏を主張する 東は黙って是に従った。新田系のである。三河土 本瀬の本地・鎌倉が在る新領地の武蔵、相 でも百万石が有れば天下を狙える」と言って家 三河国を宥めたと伝えられる。

国武将には夢も希望も無い新領地であった。れ野原に過ぎず、涙を呑んで故郷を捨てて来た戦都になる前の東京市歌で唱われたように全くの荒東京などは「♪紫匂いし武蔵の野辺に…」と東京東代ならば願っても無い地域であるが其の頃の

親切ごがしで江戸湾湿地帯を勧めてくれた。狸爺して使いたかったのだが、秀吉は警戒して許さず、家康は北条氏が拠点としていた小田原城を改造

り上げられた甲斐(甲府)には豊臣一族が置かれる ようとした徳川家康は手も足も出せず、 信濃には真田・仙石らの豊臣系武将が頑張ってい 竹、安房には里見、下野には宇都宮など豊臣政権 土地へ封じ込められたことになるのである。 た上に会津には上杉景勝が居たから、 に忠実な大名が配置されただけで無く、 と言われた家康でも湿地帯は好まない。 家康が支配出来ない常陸には佐 関東で伸び 知らない 家康が取 更に関東

描かれていたのであろう。 秀吉の頭の中には、そう言う都合の良い筋書きが 場を失い粗末な江戸城で袋の鼠となって滅びる… 領内に反乱が起きることを期待していた。 土豪の 秀吉はそれらの土豪たちが家康の支配に抵抗して 田原北条氏に繋がる小豪族が鳴りを顰めており、 一斉蜂起で追い詰められた家康は、海を前に逃げ それに加えて、家康に与えられた新領地には小

は家康の狸智略に及ばなかったことになる。 いる。家康は此のメンバーで、秀吉から宿題にさ 懐柔策で徳川家臣団に組み入れられたから喜んで 原系の怪しげな地方豪族たちは、 れた京都守護を実行したのである。秀吉の猿知恵 ところが豊臣秀吉が (反乱を) 期待していた小田 瞬く間に家康の

と言った。家康は笑って「合戦に出ない女子供の 随行していた重臣の本多正信が怒って「…これは 若として答えたと伝えられる。家康は戦略的な江 を堅固な城に直せば良いではないか…」と泰然自 ように単純なことを言うな!粗末な城ならば此処 かに他の場所を選んで城造りを始めましょう…」 とても城などと呼べるものでは有りません!速や 初めて現場に来たときに其のお粗末さに驚いた。 徳川家康が、豊臣秀吉から江戸城を与えられて

、城の地の利を見出したと思われる。

めを防御する一拠点に過ぎ無かったのである。 くて海からは船で無いと攻めて来られない。本来 端にぞ見る」と自慢したように、周りの景色が良 が無く、土塁は芝が張られて丈夫ではあるが其処 の江戸城は足利氏内紛による古河城からの鎌倉攻 道灌が「我が庵は松原続き海近く富士の高嶺を軒 れども水の無い空堀であった。最大の強みは太田 に竹や木が植えてあるだけ、 太田道灌が築いたとされる当時の江戸城は石垣 堀は深くしてあるけ

間で徳川王国化してしまったことになる。 関東へ来ると直ちに要地を抑えた。井伊直政を十 族の武将を領内の要所に配して、関東地方を短期 藤、平岩、高力、伊奈、牧野など譜代の家臣や一 を十一万石で館林に封じたほか大久保、奥平、内 大多喜に、酒井重忠を十万石で川越に、榊原康政 二万石で箕輪(高崎)に、本多忠勝を十万石で上総 け掛かったような秀吉の策謀には乗せられない。 「狸爺」と敬称?された人物であるから半分は呆 手足を捥がれたような徳川家康だが、さすがに

用材料に活用されて消滅したらしい。 ある。当時は神田辺りに大きな山が有ったと言わ れているが、其の山は石岡の龍神山のように工事 積が拡大されて文字どおりの名城が出現したので 何よりも城門が堅固になり櫓の数が増えた。総面 にされ、本丸は拡張されて天守閣が増やされた。 立派な城に変わった。堀が深くされ、土塁は石垣 ムの先駆のように大改造が行われ見違えるような 一方で構造的にお粗末だった江戸城はリフォー

築城技術も進歩していたようで家康の大改造で江 、城は見違えるような立派な城となり、 西暦千六 太田道灌の時代から百数十年経っていたから

> 川二百六十年の政権を保つ拠点となったのである。 百六年(慶長十一年)九月二十三日に完成し、徳

恐竜滅亡と哺乳類繁栄

摩擦熱で地上は20℃。各地で森林火災。 温度1万℃。岩石も溶け、一帯は火の海。④塵や 1000倍)。②高さ3027の津波発生。③衝突地点の ①マグニチュード 11以上の地震発生(東日本大震災の を纏めると…凡そ次のような大事件であった。 発表。新聞解説・ネット・科学誌などから、概要 隕石が衝突し、環境が激変し、恐竜が滅亡したと ズ博士(88年ノーベル賞)とその息子が6550万年 小石は天空高く舞い上がり、大気圏再突入の際、 1 9 8 中米ユカタン半島に、直径10~15㎞の巨大 0年、 米国の物理学者ルイス・アル バレ

発見。 年前の中世代白亜紀と新世代第3紀の地層境界)に高濃度で と、その空いた空間に、哺乳類が猛烈な勢いで増 多くの陸上動物が滅亡(アロ%)。⑨恐竜が滅亡する 明るさで光合成不十分。食物連鎖が崩れる。 は地球全体を覆い、寒冷化が10年も続いた。⑧舞 地殻には殆ど存在しない隕石由来の、イリジュー ⑤1991年、ユカタン半島(メキシコ)の地下1 硫黄分が多いため、酸性雨となり植物を枯らし、 い上がった塵のため、昼間でも満月の 10 分の1の に近いほど濃密に発見。⑦衝突で舞い上がった塵 畑付近に、直径 18 ㎞の、巨大クレーター発見。⑥ 同じく、高温で変質した石英がクレーター 霊長類が誕生する。

こうして、さすがの恐竜も、 アッという間に滅

る。霊長類は雑食性で、消化管の長さは、草食獣 でも、モグラなど食虫目から、「霊長類」が誕生す も、大型類人猿は、体重比で大脳が非常に発達し、 と肉食獣の中間に位置する。そして霊長類の中で 亡してしまった。その後は哺乳類が大繁栄し、中 言語を発達させる。 と枝分かれし、直立二足歩行を始め、道具を作り、 ついに人類の祖先は700万年前、 チンパンジー

呪わしき原爆まで製造し、大量殺戮を実行。人類 の歴史に古今東西、戦争の止む時がなかった。 境を汚染し、母なる自然を破壊した。おまけに、 させたが、目先の利益のために強欲。限りなく環 間同士殺し合いをし、真に醜い動物へと進んでい が、悲しいかな残ったチンパンジーと人類は、仲 った。特に人類は、道具や言葉を使い文明を開化 ンウータンとゴリラは、とても温厚な動物である しかし、大型類人猿の中で、先に分岐したオラ

ら人類は目を覚まし、真の大人になれるのか。セ の相違で、いがみ合う超未熟社会。いつになった 猾な悪智慧に余計に頭が働く。そして宗教や思想 子孫が安全に暮らせる環境を残すよう、いい加減 何もかも、 レブでなくてよい。パラダイスでなくてもよい。 人・テロ・戦争。人類は倫理的な叡智よりも、狡 この辺で目を覚まし、方向転換すべきである。 いじめ・裏切り・過労死・詐欺・権力闘争・殺 文明の進化速度は、もっとスローであるべきだ。 もっと自然とのバランスを考え、将来、 高速を求めるから格差を生じ、争いが もし人類に「智慧」というものがある つつましやか。笑顔で、平凡な生

> 風と戯れて 木下明男

クラブを振っても打つのは空気と枯葉のみ ・ふってもふっても



斑黄に

心も和む

落ち穂踏み

空振りの

早さの降雪に慌てて冬支度 ・早すぎる雪に



盛んに落ちる公孫樹の葉と戯れる ・落ち穂踏み

活ができれば、御の字である。

(特別企画)

打田昇三の私本・平家物語

巻第五 - (二 - 1)

勧進帳(かんじんちょう)のこと

の(「福原院宣」)としているから、話が少し遠回りにな ろ!」と言いたくはなるが、先に述べたように平家 ることをご了承頂きたい。 引き続いて文覚の話になるので「いい加減に 源頼朝の挙兵は文覚の勧めに依るも

呂(藤原仲麻呂の乱に戦功があった)が建立した伽藍(寺院) かつて称徳天皇(孝謙女帝の重祚)の時代に和気の清麻 護寺に入って修行の日々を送っていた。此の寺院は かったから修理が行われることもなくて勿論、 さらに酷い状態に置かれていたのだが、住職が居な は霞に立ち籠められ、秋には霧に覆われ、扉は壊れ であるが、時代の経過で衰退し荒れ果てていた。春 て落葉の下に埋もれ屋根の瓦は痛み、堂内の仏壇も 京都に来てからの文覚は、 右京区に在る高尾山神

のところを回っていた。為の趣意書(勧進帳)を勝手に書いて、各地の旦那衆何としても是を修造しようと思い立ち、寄付を貰う言う状態であった。立ち寄った文覚は余りの酷さに、る人も無く、稀に入るのは僅かな日月の光のみ、と

るだけで文覚のことは放っておかれた。しんでいたから家臣が取り次いでも不快な顔をされし入れた。其の時に法皇は人を集めて歌舞音楽を楽る法住寺殿に行って家臣に勧進帳を示し、寄付を申既に触れたように或る時に後白河法皇の御所であ

である。である。

く勧進帳である。 く勧進帳である。 と動きを関っている。その為の寄進を頂いに一院を建立して様々な人々が安楽に往生出来るよる。此の度、多くの方々の助けを頂き高尾山の霊地のがった。

道を外す者を禁制し迷いを正すことが出来る者が居無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理無辺である。衆生と仏とを仮に区分しているが真理を外す者を禁制し迷いを正すことが出来る者が居を外す者を禁制し迷いを正すことが出来る者が居

大王に仕える獄卒の責めを免れない。

が出来る霊場を高尾山に建てようと思い立った。を断ち切るために修行を重ねて来た。然し、将来の為を思う言葉は中々、人に受け入れられて貰えない。為を思う言葉は中々、人に受け入れられて貰えない。れた真実の教法が書かれており一つとして悟りの境れた真とないものは無い。其の為に此の文覚は世の地に達しないものは無い。其の為に此の文覚は世の境と俗の諸人とに勧めて菩薩の修行を体得することが出来る霊場を高尾山に建てようと思い立った。

とを…よって、勧進修行の趣は、以上の通りである。とを…よって、勧進修行の趣は、以上の通りである。といまして経済が遊んでおり、俗世間に惑わされることを無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出来も無い。正に仏天を仰ぎ、信仰一途の暮らしが出れることを…まして紙一枚、銭半銭の寄進でも志は仏に通じる。願わくは万民の為に建立成がにある。とを…よって、勧進修行の趣は、以上の通りである。とを…よって、勧進修行の趣は、以上の通りである。とを…よって、勧進修行の趣は、以上の通りである。

カ=運輸関係高級官僚)と侍従の藤原盛定が六弦の琴まともな勧進帳であるから、或いは協賛してくれる者ともな勧進帳であるから、或いは協賛してくれる者ともな勧進帳であるから、或いは協賛してくれる者とがな対臣・藤原師長が下手な琵琶をカキ鳴らし、安太政大臣・藤原師長が下手な琵琶をカキ鳴らし、安太政大臣・藤原師長が下手な琵琶をカキ鳴らし、安太政大臣・藤原師長が下手な琵琶をカキ鳴らし、安太政大臣・藤原師長が下手な琵琶をカキ鳴らし、安太政大臣・藤原師長が下手な琵琶をカキ鳴らしてはました。

た。 中に…法皇はすっかり歌手気取りで何曲も歌っていの練習をしていた様なもので有る。勿論、勤務時間で弾じていたから現代で言えば楽団付きでカラオケ

った。 此処を動かぬ!」と言って、その場に固まってしま それを知っていたかどうか文覚は資行を相手にせず らしいのだが、法皇の庇護で逃げて居られたらしい。 の武士は巻第一の反平家鹿谷謀議にも参画していた を言っておるか!此方へ出て来い!」と叫んだ。こ 士が一足早く走り出して文覚に近寄り「何と言う事 に向かっていった。その中で新平判官資行という武 に居た警護の者の中で血気に逸る若い者たちが文覚 るか。憎い顔を見せよ!」と叫ぶまでも無く、 てしまったから「(カラオケの邪魔をしたのは) 何者であ ある。法皇の歌も機械で採点が出来ない程に乱され ら、どちらが悪いかは別にして是は怒られる場面で 負けない大声を発して勧進帳を読上げたのであるか 「高尾の神護寺に荘園の一か所でも貰わぬうちは、 其処に入り込んだ文覚がマイク無しでカラオケに 周り

転がされ近くの大床の上に逃げ登った。拳(こぶし)で胸を突き上げたから資行はたまらずにが、文覚は勧進帳で資行の烏帽子を払い落してからそこで資行は文覚の首筋を捕らえようとしたのだ

の騒動なのめならず…」とあるが両者が戦っても大であるから原文に「…御遊もはや荒れにけり。院中相手の法皇方も主要メンバーはカラオケ好きの公卿に来たのであるから武器は勧進帳と短刀しかない。整えたのであるから武器は勧進帳と短りしかない。をうなると勧進帳もカラオケ教室も御破算になりそうなると勧進帳もカラオケ教室も御破算になり

騒動の割には中身が無い。

まれた。

東の中に御所の外で警備に就いていた信濃国の武まの中に御所の外で警備に就いていた大賞は喜んで来た。相手が弱くて拍子抜けしていた文覚は喜んで来た。相手が弱くて拍子抜けしていた文覚は喜んで安藤に向かってきたのだが、安藤が見ると紙のんで安藤に向かってきたのだが、安藤が見ると紙のが怯(ひる)むところを自分も太刀を捨てしてから文覚がに持ち込んだ。両者互角の戦いを展開する中に暴力に対していた時間の長い文覚が力負けして安藤に抑え込れていた時間の長い文覚が力負けして安藤に抑え込れていた時間の長い文覚が力負けして安藤に抑え込まれた。

結局、文覚は検非違使(警察)に引き渡されたのだ結局、文覚は検非違使(警察)に引き渡されたのだが、それでも法皇に対する悪口雑言を止めず恨み言だから仕方が無いが、此の文覚に対して酷い仕打ちをした事に対しては思い知らさなければならない。中国と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の難を逃れることは出来ない。十三宮と言えども其の強を強いることは、とは、大きに対している。

昇進をさせて貰った。通常は武者所の上席を経てかとは反対に文覚を負かした安藤武者はご褒美に特別は恥ずかしくて暫くは勤務にも就け無かった。それ向かって行って帽子をとばされてしまった資行判官気の毒なのは騒動の巻き添えを食った人物で最初にどちらかと言えば文覚のほうは自業自得であるが、どちらかと言えば文覚のほうは自業自得であるが、

翼された。 いきなり右馬允(うまのじょう=国±交通省の係長級)に抜ら次の職に任官されるのに、法皇御所の警備員から、

文覚の方も一応は刑務所送りになった訳であるが、文覚の方も一応は刑務所送りになった訳であるが、不皇生母(鳥羽天皇皇妃)の藤原得子が亡くなったので、天皇生母(鳥羽天皇皇妃)の藤原得子が亡くなったので、大赦という名目で文覚も自由の身になった。これで下が性懲りもなく勧進帳を振りかざして寄付集めを声開した。評判が良くないから寄付集めも思うようで、文覚の方も一応は刑務所送りになった訳であるが、文覚の方も一応は刑務所送りになった訳であるが、

という達しが出て結局、文覚は伊豆国へ流されるこの法師は危険人物であるから遠方へ流罪とせよ!」たので、多分、後白河法皇の指示だと思うのだが「こたので、多分、後白河法皇の指示だと思うのだが「こか世の中は乱れていて君 (天皇) も臣民も、滅びてしの世の中は乱れていて君 (天皇) も臣民も、滅びてし

親類知人に品物や餞別を出して貰い―それを我らへ親類知人に品物や餞別を出して貰い―それを我らへさんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、さんは遠い国に流されることになったのであるから、親類知人に品物や餞別を出して貰い―それを我らへ親類知人に品物や餞別を出して貰い―それを我らへ

x これど引いこて記む「三曽こ、、、 の手土産にしなさい…」と言った。

聞くと、 が書け…」と威張っている。止むを得ず放免たちが こう。紙は無いか…」という。放免たちが粗末な紙 の通りに書いて「さて、宛名は誰にするのか?」と いの者に何かを与えてください…」と言うので、そ 対するチップなどが必要になった。どうか、この使 に伊豆国に流されることとなり、遠路の為に役人に を貰うどころか牢獄に投じられてしまった。その上 様な(話の分らない)法皇の時代になってしまい、寄付 寺造立供養を志し、それを進めて居るほどに、今の 筆を取ると、文覚が口を開いて「文覚は高尾の神護 らと手紙など書かぬ。私が言うからそれをお前たち の子紙を探してくると、文覚は笑って、「法師はやた て放り出した。それでは…と少し厚い常陸国産の鳥 を探してくると「この様な紙に書けるか!」と怒っ は居ないが、東山の辺りに知人が居るから手紙を書 それを聞いた文覚は「生憎と、そう言う親類縁者

れて賄賂は貰えなかった。 「清水の観音へ、と書け」と答えた。放免たちが怒って「下級職員でも我らは検非違使庁の役人であるって「下級職員でも我らは検非違使庁の役人であるない。結局、欲の深い役人たちは文覚にはぐらがさない。結局、欲の深い役人たちは文覚にはぐらがさない。結局、欲の深い役人たちは文覚にはぐらがされて賄賂は貰えなかった。

強く波は大きくなるばかりである。転覆を免れようとしていたけれども、風はいよいよに揺れ出した。舵取りや水夫たちは必死に操船して風が強くなり大波が立って、今にも船が転覆しそう風が強くなり大波が立って、今にも船が転覆しそう恵)を出港して遠州灘に差しかかったところで急に市)を出港しての文覚を乗せた船は阿野の津(三重県津

船中の一同が或いは観世音菩薩の名を唱え、或い

でか!」と叫び出した。
でか!」と叫び出した。
や船の舳先に立ち、沖の方角を睨んで「龍王はお出や船の舳先に立ち、沖の方角を睨んで「龍王はお出いた。その中に何を思ったのか、他の者が「これがいた。その中に何を思ったのか、他の者が「これがいたのだが、文覚はは南無阿弥陀仏の念仏を唱えていたのだが、文覚は

勿論、龍王は返事をしなかったが、文覚は構わずの論、龍王は返事をしなかったが、文覚は構わずに着いたのである。

三十一日もかかった。
三十一日もかかった。
前ので浦伝い島伝いの航海であったから日数がかったので浦伝い島伝いの航海であったから日数がかったので浦伝い島伝いの航海であったから北京となったときは道端にて無駄死にすることで有ろう…」とたときは道端にて無駄死にすることで有ろう…」とたときは道端にて無駄死にすることで有ろう…」とたときは道端にて無駄死にすることで有ろう…」とたときは道端にて無駄死にすることが有って「急から中豆虫が都に大きないる。

只人とは思えないことが多かったのである。は少しも衰えず、船内で仏事に専念していた。誠に其の間は悲願達成の為に断食をしていたのに気力

福原院宣(ふくはらいんぜん)のこと

もそうである。内容は伊豆に流されていた源頼朝がには良心が咎めるような部分が多い。此の章段など平家物語には、嘘とは言い切れ無いが本当と言う

事は無いのである。 事は無いのである。 「平家追討の為に決起する」ことであり、次の章段 「中家追討の為に決起する」ことであり、次の章段 「平家追討の為に決起する」ことであり、次の章段

院宣という筋書きである。 についるのである。決起を渋る頼朝に対して文覚上人が手をのである。決起を渋る頼朝に対して文覚上人が手をがのである。決起を渋る頼朝に対して文覚上人が手を此の場合は院宣の趣旨が「平家を討て!」というもいの場合は院宣の趣旨が「平家を討て!」というもにの場合は、上皇つまり隠居した天皇(院)に代わり

て話を進めることにする。
て話を進めることにする。
には既に以仁王の令旨を受けた源頼朝が平家打倒のには既に以仁王の令旨を受けた源頼朝が平家打倒の兵力集めを始めている。別に文覚が居ても居なくて兵力集めを始めているが、吾妻鏡では同年の六月下旬、平家物語に採用して貰った記事であるから黙って話を進めることにする。

後白河法皇を相手に無礼を働いた文覚は伊豆国に 後白河法皇を相手に無礼を働いた文覚は伊豆国に がは貴方しか居られません。速やかに平家に 京た人物は貴方しか居られません。連やかに平家に がなを去年の八月に失い運命が衰亡に向かっており 広でを去年の八月に失い運命が衰亡に向かっており 虚公を去年の八月に失い運命が衰亡に向かっており 虚公を去年の八月に失い運命が衰亡に向かっており がまでは無い。そこで文覚は都の状況などを頼朝 に語り「平家は、心が強く智謀に優れた大黒柱の重に (現在の事) に置かれた。源頼朝は北条氏の館に 大原を翻(ひるがえ) し、日本国中を従えさせ給え!」 と申し入れた。

是に対して頼朝は遠慮深く、思慮深く「文覚殿は

思いも寄らぬ事を申されますな…私は今は無き池 すが、此の文覚が思うところあり、 いて誰にも弔らわれることなく放置されていたので れた後に、獄舎の前に捨て置かれ苔の下に埋もれて 左馬頭殿(源義朝)の頭蓋骨です。平治の乱で殺害さ て語り出した。「…是こそ、貴方のお父上、今は亡き ださい…」と言ってから懐に持っていた白い布に包 っている証拠として是をお見せします。良くご覧く れませんが、実はそうでは無く本当は貴方の事を思 と心の中を試そうとするように受け取られるかも知 けると…古書に書いてあります。この様な事を申す 好の機会に其れを決行しなければ逆に其の災いを受 ければ却(かえ)って其の咎(とが=怒り)を受け、絶 ろ法皇にさえも気を使わない傍若無人の悪僧である。 ることを意識したものであろうけれども文覚は何し が平家の命令を受けた地元武士たちに監視されてい うと思っていません」と答えた。この返事は、 る為に) 毎日、法華経一部 (巻) を読む他には何もしよ たのですから、其の後世を弔い(かつ源氏一族の供養をす 尼殿に、生きていても仕方の無い様な命を助けられ んだ何やら怪しい物を取り出して頼朝の前に置いた。 頼朝が「是は何か?」と問えば、文覚は勿体ぶっ 一段と声を大きくして「天の与えることを取らな 牢獄の番人に話

尽くして来た者です…」の様にして、此の文覚は、今は亡き左馬頭様の為にの様にして、此の文覚は、今は亡き左馬頭様の為に長い地獄の苦しみから解放されたことでしょう。そを拝み回り弔い続けてきました。今は義朝公の魂も私は此の十余年間、是を首に掛け各地の山々、寺々

を付けて貰い受けたものです。

しく先ず父親の最後を想像して涙を流したのである。のものであるとは思えないけれども、何となく懐か其処まで言われると頼朝も、其の首(骸骨)が父親

進める。 進める。 進める。 進める。 進める。 で殺され首は死体と一緒に穴に埋められた…とある。 で殺され首は死体と一緒に穴に埋められた…とある。 が延びた源義朝は家来筋の長田荘司忠致に裏切られ が延びた源義朝は家来筋の長田荘司忠致に裏切られ が延びた源義朝は家来筋の長田荘司忠致に裏切られ

う」と言い切った。

「として伊豆に流されたのであるから、天皇のお許えるのだが「法律に従う」とか「規則を守る」とかえるのだが「法律に従う」とか「規則を守る」とかいう選択肢が無い文覚の頭では「それは容易(たやすいう選択肢が無い文覚の頭では「それは容易(たやすいう選択肢が無い文覚の頭では「それとということしが無ければ此処を出て兵を挙げるなどということしが無ければ此処を出て兵を挙げるなどということはできない」と頼朝は言う。普通に考えれば頼朝のはできない。

立ち去って行った。
立ち去って行った。
立ち去って行った。

言って出掛けた。急ぎの旅で福原の新都まで三日でたちに「熱海にある伊豆山神社に七日間、籠る」とのは不思議だが、自分の居場所に戻った文覚は弟子のは不思議だが、自分の居場所に戻った文覚は弟子工人として流された身分なのに自由行動が出来る

恨みがある。 巻三「大臣流罪」で平清盛に免職されたから平家にうえのかみ=右兵衛府の長官) などの要職に就いていたがので先ず其処を訪ねた。此の人物は右兵衛督 (うひょんり、後白河法皇に仕える藤原光能が知人であった上り、後白河法皇に仕える藤原光能が知人であった

申している。(その手配を願いたい)と申し入れた。文覚 め軍勢を催し平家を打ち滅ぼして天下を静める」と ければ、関東八か国に居る源氏ゆかりの者たちを集 補佐役)源頼朝の勅勘を許された上、法皇の院宣を頂 の態度の悪さを知っては居るが、是を平家に向けさ も無いが…とにかく法皇にお話して御意見を伺って きが出来ず、誠に苦しい状態なのだ。それどころか それが、実は私も平家に官職を止められていて身動 は藤原光能が喜んでくれる、と思ったのだが期待に せれば面白いことになると考えて文覚の希望どおり 白河法皇の許に行き事情を報告した。法皇も、文覚 みる」と言って警備の兵士に気付かれないように後 法皇も押し込められていてお気の毒な有り様で言葉 反して光能は困った顔をして小さな声で言った。「… 「平家打倒」の院宣を書いてくれた。 文覚は「伊豆国に流されている前兵衛佐 (兵衛督の

家打倒の命令書を差し出した。

家打倒の命令書を差し出した。

家打倒の命令書を差し出した。

家打倒の命令書を差し出した。

家打倒の命令書を差し出した。

家打倒の命令書を差し出した。

といまのおまに扇動されて謀反に加わるような事になってしまったが、これが露見したならば、どんになってしまったが、これが露見したならば、どんになってしまったが、これが露見したならば、どんになって、まず、といいには、といいいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいいいには、といいには、といいいいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいには、といいいいいいいには、といいいには、といいには、といいには、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいは、といいいは、といいいいは、といいは、といいいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいいは、といいい

を洗い、口を濯ぎ、衣服を着替えて礼装になり、文文覚と違って偉い人に弱い頼朝は院宣と聞いて手

いが次の様に書かれていた。ら徐(おもむろ)に開いた。それには現代では通じな覚が放り出すように渡した院宣を三度、拝礼してか

こすべし。其の趣旨に添い院宣を下す。依って是を り、或いは勅宣の趣旨に依って横暴を極める平氏の ている暇が有ったかどうか… なので、後白河法皇が生意気な文覚に院宣など出 倉天皇第四皇子の尊成親王 (後鳥羽天皇) が生まれた日 に掛けて戦ったと言われる--此の章段はその様に結 日 執達すること此の通りである。 治承四年七月十四 れた奉公の志をもって忠勤を励み、身を建て家を起 る武芸の道を駆使し兵略を継ぎ、祖先から引き継が い者はいなかった。然らば即ち或いは神の援助によ 帝王の危機を企み国家を危ぶめる者は皆、 る。その故に朝廷が政治を始めてから数千年の間、 の国である。皇室の祖霊と並んで神徳が明らかであ を軽んじ、 私欲を挟み憚ることが無い。 んでいる。文覚を疑う訳では無いが七月十四日は高 類を誅し朝廷の怨敵を退治せよ。源氏の家に伝わ 源頼朝は院宣を錦の袋に入れ石橋山合戦の時も首 「此の数年、平家は王室を軽視し侮辱して政治に 前右兵衛督光能が承り前右兵衛佐殿へ謹上す」 是を滅ぼす事さえ企んだ。我が王朝は神 仏法を破滅させて朝廷 敗北しな

次の「富士川」は待望の源平合戦場面に入る。

編集事務局 〒315-0001

石岡市石岡13979 - 2

(白井啓治方)

http://www.furusato-kaze.com/